

オンライン シンポジウム

しごと・就労支援を切り口にした地域づくり

参加無料

日時 令和5年3月23日(木) 13:30~15:30

場所 Zoomウェビナー

対象者 全国の生活困窮者自立支援機関、重層的支援体制整備担当の職員等
どなたでもご参加いただけます (定員500名)

お申込み 下記のリンクまたは右のQRコードより事前登録をして参加用URLを
取得してください。当日13:30締切。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_kdM0z1oaRwik0mzl01V3-A



○プログラム○

開会あいさつ

池田徹氏 ユニバーサル志縁センター代表理事

しごと・就労支援を切り口にした地域づくりワーカー育成事業の到達点

西岡正次氏 A'ワーク創造館(大阪地域職業訓練センター) 副館長

多機関参加型ワークショップを出発点とする就労支援のための地域づくり ～体験プログラムの活用と就労相談アセスメント～

丸山孝興氏 伊丹市健康福祉部(共生福祉社会推進担当) 主幹

就労支援からの地域づくりにおける県社協の役割 ～モデル市町での取り組みより～

吉岩宏樹氏 大分県社会福祉協議会地域福祉部

民間活力を導入した居場所づくりから就労自立までの一体的な支援の取組 ～地域の連携が生み出す多様な可能性～

橋本一磨氏 豊田市福祉総合相談課 副課長

総括コメント

西岡正次氏 A'ワーク創造館(大阪地域職業訓練センター) 副館長

小田川華子氏 ユニバーサル志縁センター 事務局長

主催:公益社団法人ユニバーサル志縁センター

❖このシンポジウムは令和4年度(R3補正予算)WAM助成事業「生活困窮者等への中間的就労推進を核にした地域作りワーカー育成事業」の実施報告の一環で実施するものです。

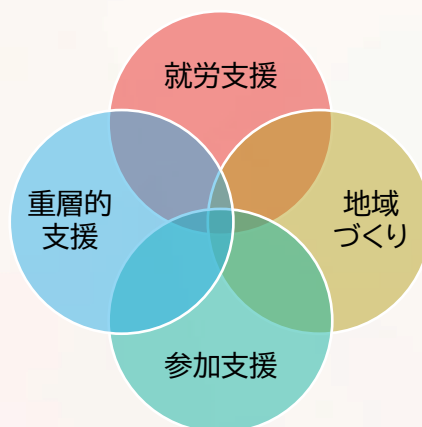
重層的支援体制 × 就労支援

一人ひとりの相談者にあった就労支援のステップを用意するにはどうすればいいのでしょうか？

それには、様々な関係機関や企業等が連携して、多様なプログラムを創り出す必要があります。

個別ケースのマッチングや事業所単体の取り組みを越えて、地域の仕組みにしていく場合、重層的支援体制づくりや、参加支援の事業と重ね合わせて検討していくことができそうです。

シンポジウムでは、先進地域の事例を紹介します。



地域の様々な関係者とともに就労支援の新たな仕組みづくりを考える

1. 地域づくり運営チームの
立ち上げ



2. 多機関参加型ワークショップの
企画・実施



3. 必要な仕組みの検討



4. 就労支援のための地域プラット
フォームのデザイン

「しごと・就労支援を切り口にした地域づくり
ワーカー育成事業」では、多機関参加型ワーク
ショップで地域の就労支援ニーズ、必要な取り
組み、目標イメージを共有していただくところ
から始めました。

当事業に応募した団体(部署)が、各地域で就
労支援にたずさわっている機関、これから関
わってもらいたい機関、関係者に参加を呼び
かけ、それぞれの地域に必要な仕組みについ
て一緒に考えました。

こうした取り組みを県域でサポートする中間支
援の必要性とその試みについて、シンポジウム
で考えます。

「しごと情報」(業務・作業の内容や特性、職場環境など)を軸にした就労支援

就労支援でのミスマッチによる早期離職が課題に
なっています。どのゆにすればよいのでしょうか？

ミスマッチを防ぐには、企業や農家等、働く現場での
業務・作業を切り出し、その内容や特性、職場環境と
いった「しごと情報」を明確にし、体験プログラム等に
する方法が推奨されます。

体験プログラムをシート資料にし、地域の様々な就労
支援機関で活用する試みについて、シンポジウムでお
話いただきます。

企業等での業務・作業の
切り出し



「しごと情報」を体験等の
プログラムに



「しごと情報」シートの
地域共有資源化



「しごと情報」を活用した
マッチング*